

令和3年度（2021年度）

熊本県立八代中学校

シラバス（第3学年）



目 次

国語	2
社会	4
数学	6
理科	8
音楽	1 1
美術	1 2
保健体育	1 3
技術分野	1 5
家庭分野	1 7
英語	1 9

教 科	国語	科 目	国語	学 年	3	類 型	
単位数	3	教科書	東京書籍 新しい国語3				
副教材	増補版国語便覧熊本県版、基礎の学習 3、常用漢字ダブルクリア、中3徹底演習テキスト国語						

学習目標	・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにする。 ・国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達目標評価		
			A	B	C
1 学 期	生命は	・詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。	☐	☐	☐
	二つのアザミ	・表現の工夫に注意して、筆者の考えを捉える。	☐	☐	☐
	俳句の読み方、味わい方	・表現の工夫に着目して、俳句を読み味わう。	☐	☐	☐
	俳句を作って句会を開こう	・俳句のよさを評価してまとめる。	☐	☐	☐
		・俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。	☐	☐	☐
	和語・漢語・外来語	・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。	☐	☐	☐
	間違えやすい敬語	・間違えやすい敬語に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。	☐	☐	☐
	形	・場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。	☐	☐	☐
	百科事典少女				
	評価しながら聞こう	・場面の展開や表現の仕方に注目し、作品を評価する。	☐	☐	☐
		・様々な観点から評価しながら聞き、自分の考えや表現に生かす。	☐	☐	☐
	連語・慣用句	・連語や慣用句について理解する。	☐	☐	☐
	熟語の構成・熟字訓	・熟語の構成や熟字訓について理解する。	☐	☐	☐
	絶滅の意味	・論理の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。	☐	☐	☐
2 学 期	論理的に読む	・人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。	☐	☐	☐
	素材を生かして表現する	・文と文、段落と段落などの関係を考えながら、文章を論理的に読む。	☐	☐	☐
	編集して伝えよう	・体験と知識を、表現の素材として生かす。	☐	☐	☐
	「環境」の新聞	・知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。	☐	☐	☐
	四字熟語	・書いた文章を読み返し、推敲して誌面を仕上げる。	☐	☐	☐
	送り仮名	・四字熟語の構成について理解し、さまざまな四字熟語を知る。	☐	☐	☐
		・送り仮名について理解する。	☐	☐	☐
	幸福について	・文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。	☐	☐	☐
	観察・分析して論じよう「ポスター」の批評文	・文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。	☐	☐	☐
		・比較することを通して、物事を深く理解する。	☐	☐	☐
		・批評の対象について観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。	☐	☐	☐
		・論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。	☐	☐	☐
		・書いた批評文を読み合って評価し、ものの見方や考え方を深める。	☐	☐	☐
	目的や相手に応じて説明する 場面に応じて話そう	・目的や相手に応じて必要な情報を判断し、分かりやすく説明する。	☐	☐	☐
		・体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。	☐	☐	☐
	曖昧な文・分かりづらい文	・敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。	☐	☐	☐
		・曖昧な文や分かりづらい文になる原因を理解し、言葉遣いの感覚を磨く。	☐	☐	☐
	送り仮名	・送り仮名の付け方について理解する。	☐	☐	☐

	初恋 万葉・古今・新古今	・表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・和歌が詠まれた背景や作者の心情を想像しながら、和歌の世界に親しむ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	おくのほそ道	・和歌の意味や使われている技法に注意して、鑑賞文をまとめる。 ・当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	論語	・構成や表現の特徴とその効果について考える。 ・古人の言葉を読み味わい、自分の文章に生かす。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	言葉の移り変わり 文法のまとめ 故郷	・古人の言葉を引用し、自分の考えを書く。 ・言葉の変化について理解する。 ・文法的な性質の異なる後の見分け方を通して、文法の復習をする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	紛らわしい漢字 何のために「働く」のか	・場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。 ・作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		・人物の特徴や、人物どうしの関係の変化を捉える。 ・形や音の似た、紛らわしい漢字に注意する。 ・読んだ本を振り返り、これからの読書生活への展望を持つ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	いつものように新聞が届いた 合意形成を目指す話し合い 話し合いで意見をまとめよう	・情報の意義とメディアの役割について考えを深める。 ・対立する意見について、合意の形成を目指して考えをまとめる。 ・話し合いが効果的に展開するように、進行の仕方を工夫する。 ・問題の解決に向けて、お互いの考えを生かし合う。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	今の思いをまとめよう	・中学校生活を振り返ったり将来を展望したりして、思いを手紙にまとめる。	☐ ☐ ☐
	間違えやすい言葉 レモン哀歌	・下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。 ・読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉に注意する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	生ましめんかな	・効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。	☐ ☐ ☐
	最後の一句	・詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。	☐ ☐ ☐
		・文学作品を読み、人間や社会について考える。	☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	【授業の進め方やポイント】 ○教科書をよく読んで内容の理解に努める。○音読に積極的に取り組む。○授業ノートはただ板書を写すだけではなく、疑問や考えなどを積極的に記入する。○配られたプリントはフラットファイルに綴じ、整理すると共に自分の考えを記入する。○文章の内容を自分の問題として考え、自分の意見や考えを持つようにする。自分の考えを述べる発言で表現力を伸ばす。○感想や疑問をしっかりと出し合い、他者の発言に耳を傾ける。そして、自分との共通点や相違点を理解し、考えを深める。
	【家庭学習の進め方やポイント】 ○新しい単元の前に、新出漢字と語句の確認をする。（「基礎の学習3」の利用、辞書の活用）○授業の後は授業ノートやプリントを見直すなどの復習をする。（「基礎の学習3」の活用）○出された課題や宿題は必ずする。○漢字テストで満点が取れるように、毎日の漢字練習を続ける。○習った漢字や語句は何度も練習し、定着させる。○自分の使える言葉や漢字を増やすために、ふだんから沢山の文章（新聞等）を読み、分からない言葉や漢字は調べる習慣を身につける。辞書を引くことをおっくうに考えないようにする。

評価方法	【知識・技能】 定期テスト、小テスト、授業時の課題
	【思考・判断・表現】 定期テスト、小テスト、授業時の課題
	【主体的に取り組む態度】 授業中の様子、漢字テスト、課題の提出状況、定期テスト、発表

教 科	社会	科 目	社会	学 年	3	類 型	
単位数	4単位	教科書	中学社会 歴史（教育出版） 新しい社会 公民（東京書籍）				
副教材	みつけよう？と！歴史資料（とうほう） 新しい公民（浜島書店） 社会の自主学习2・3（新学社） 中学実力練成テキスト社会全						

学習目標	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達目標 A B C
1 学 期	【歴史的分野】 第7章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 大正デモクラシー 3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦 第8章 現代の日本と世界 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本 【公民的分野】 第1章 現代社会と私たち 1 現代社会の特色と私たち 2 私たちの生活と文化	・第一次世界大戦の背景や戦いの様子、大戦後の世界の動きについて関連づけながら理解する。 ・大正時代の特色について、政治・社会・文化を関連づけながら理解する。 ・第二次世界大戦を引き起こした要因について、世界恐慌による世界経済の悪化と各国の社会の混乱、それともなう政治体制の変化を関連づけながら理解する。 ・第二次世界大戦のあらましについて、日本と世界の動きを関連づけながら理解する。 ・世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ・1960～70年代の世界と日本の動きについてとらえ、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。 ・冷戦終結後の世界や日本の動きと関連づけながら、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることを理解する。 ・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがあることを理解する。 ・日本と世界との結びつきが強まる中で、情報化の進展が果たしている役割を理解し、自分たちが情報を伝え合うことや、世界とつながることの意味を考察する。 ・日本の科学技術の発展と、社会の変化や自分たちの暮らしとの関わりについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【公民的分野】 第1章 私たちの暮らしと現代社会 3 現代社会の見方や考え方 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会 3 これからの人権保障	・人間は社会的な存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であること理解する。 ・立憲主義の憲法が「人権の保障」と「権力の分立」の二つの内容で構成されていることや、「法の構成」図の内容を正しく理解する。 ・人間の尊重についての考え方、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原理としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

	第3章 現代の民主政治と社会	・人間尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さについて理解する。	□ □ □
	1 現代の民主政治	・国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることや、内閣については、日本が議員内閣制を採用していることについて理解する。	□ □ □
	2 国の政治の仕組み		
	3 地方自治と私たち	・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解する。	□ □ □
	第4章 私たちの暮らしと経済	・地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることを理解する。	□ □ □
	1 消費生活と市場社会	・経済活動の意義が人間の生活の向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを理解する。	□ □ □
	2 生産と労働	・生産は企業を中心に行われていること金融には家計の貯蓄などを企業の生産活動や人々の生活資金などとして円滑に循環させるはたらきがあることを理解する。	□ □ □
	3 市場経済の仕組みと金融	・経済の成長と安定の意味や経済の安定のために国や中央銀行が行っている経済政策について理解する。	□ □ □
	4 財政と国民の福祉		
			□ □ □
3 学 期	第4章 私たちの暮らしと経済	・個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解する。	□ □ □
	5 これからの経済と社会	・環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようになることの重要性を理解する。	□ □ □
	第5章 地球社会と私たち	・国際政治は、国際協調の観点にもとづいて国家間の対立の克服を試みるものであることを理解する。	□ □ □
	1 国際社会の仕組み	・すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解する。	□ □ □
	2 さまざまな国際問題	・グローバル化が進む国際社会の中で、国家間の格差が進み、「人間の安全保障」という考え方が広がってきた現状をとらえ、国際的な協力関係の必要性が強まってきていることを理解する。	□ □ □
	3 これからの地球社会と日本	・世代間の公平、地域間の公平、環境の保全と回復、公正で平和な社会などが持続可能な社会形成への基礎となることを理解する。	□ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	日頃から新聞やニュースを見ておいてください。授業はプリントを中心に授業を進めていきます。ノートに貼って整理してください。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。副教材の問題集を週末の宿題として出します。
------	---

評価方法	①知識・技能…学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。年表や歴史、地図など様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択し活用することができる。 ②思考・判断・表現…教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③主体的に学習に取り組む態度…学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	数学	科 目	数学	学 年	3	類 型	
単位数	5	教科書	啓林館 数学Ⅰ 改訂版				
副教材	数研出版 体系数学2 幾何編 数研出版 体系問題集 数学2 幾何編 標準 啓林館 問題集 アドバンス 数学Ⅰ+A						

学習目標	年間を通して、以下の能力を養う。 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を見だし活用する能力 ○三角比について理解し、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力 ○母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を進んで見だし活用する能力 ○将来の八代高校生として、大学入試に対応できる能力（→応用問題で扱う）
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	第4章 三平方の定理 1 三平方の定理 2 三平方の定理と平面図形 3 三平方の定理と空間図形 【高等学校 数学Ⅰ】 第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 4 集合と命題	○直角三角形の3辺の関係を具体的な観察や操作を通して調べ、三平方の定理を見いだす。 ○三平方の定理が証明できることを理解する。 ○三平方の定理の意味を理解する。 ○三平方の定理をいろいろな場面で活用しようとする態度を育て、活用できる。 ○演算の基本的な性質を理解する。 ○実数の性質を知り、その計算に習熟する。 ○数を拡張することの良さを知り、積極的に活用する。 ○数量の範囲を求めることの良さを知り、積極的に活用する。 ○絶対値の処理に慣れ、絶対値を含む方程式や不等式において、積極的に活用する。 ○集合の表し方、部分集合、補集合などについて基本的な考え方を理解する。 ○命題とその真偽について学び、命題の真理集合や反例の考え方について理解する。 ○逆・裏・対偶とそれらの相互関係について理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	第2章 2次関数 1 2次関数のグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 第3章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用	○2次関数についての理解を深め、それを活用できるようにする。 ○2次関数とそのグラフに関心を持つとともに、関数を用いることの良さがわかる。 ○表、式、グラフを関連づけながら変化の様子をとらえることができる。 ○関数を用いて数量の変化を表現し、値の変化を調べることができる。 ○2次関数とそのグラフ及び値の変化について理解し、基本的な知識を身につける。 ○2次関数を利用して、2次不等式の解き方とその解の意味について理解する。 ○2次不等式を問題解決に利用することができるようにする。 ○図形の計量の基本的な性質について理解し、考え方の有用性を認識し、具体的に考察できる。 ○三角形と計量に関心を持ちその良さがわかるとともに、具体的な事象に活用できる。 ○三角比の考え方をを用いて、図形の計量を行う過程を考	□ □

		察することができる。 ○具体的な事象の数量の関係を、三角比などを用いて表現し、計量ができる。 ○三角比や正弦・余弦定理の意味について理解し、基本的な知識を身につける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第4章 データの分析	○統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できる。 ○身近な統計の代表値について定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲の定義やその意味を理解し、データの散らばりを比較することができる。 ○分散や標準偏差、相関係数の定義とその意味を理解し、それらを求めることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	まず予習として、練習や例題を解いて授業に臨みます。授業では、内容を理解することを重視し、ただ板書を写すことにならないよう気をつけます。具体的には、予習で理解が十分でなかったところや別解などをノートの余白部分に書きます。復習として毎日担当者から課される日々の演習を行います。また、週末には課題を解きます。加えて、定期考査以外にも小テストを行って、到達状況を確認します。
------	---

評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 の3つ観点について評価を行う。中間テスト・期末テスト・実力テスト・単元テスト・提出物・出席状況・日頃の授業態度などで、総合的に評価を行う。
------	---

教 科	理科	科 目	理科	学 年	3	類 型	
単位数	4 単位	教科書	未来へひろがるサイエンス 3（啓林館）				
副教材	理科 W プリント 評価と確認（新学社）ウイニング 3 年（好学出版）ハイクラス徹底問題集中 3 理科（文理）3 年間の総整理問題集（正進社）						

学習目標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。 学んだことを互いに関連付け、自然を総合的に考え、発展的に考える姿勢を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	【単元1】 生命の連続性 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化	1 体細胞分裂の観察を通して、その過程を確かめ、細胞の分裂を生物の成長と関連付けてとらえる。 2 無性生殖と有性生殖の動物や植物について、それぞれの特徴を理解する。 3 遺伝子交配実験の結果に基づいて、親の形質が子に伝わる時の規則性を見だし、遺伝現象について理解するとともに、生命の連続性について認識を深める。さらに分離の法則を理解する。 4 遺伝子やDNAの研究成果が、日常生活や社会にかかわる様々な分野で、利用されるようになってきていることについて、文献やコンピュータ、ネットワークなどを活用して、理解を深める。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【単元4】 運動とエネルギー 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 力だめし，学んだ後にリトライ！ エネルギーをみんなにそしてクリーンに	1 実験を通して、力がつり合うときの条件や力の合成と分解についてその規則性を理解する。 2 力がはたらかない運動では物体は等速直線運動をし、力がはたらく運動では物体の速さが変わることを実験結果のグラフから分析することができる。 3 物体のもつエネルギーの量は、物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解する。 4 実験を通して、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わり、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解する。 5 仕事の概念を身につけ、エネルギーの移りわりと保存について実感し、日常生活や社会と関連付けた運動とエネルギーの見方や考え方ができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	【単元3】 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン	1 水溶液の電気分解についての観察，実験を行い、実験技能を習得するとともに、レポートを作成することで、観察・実験の結果を分析して解釈し、わかりやすく表現することができる。	☐ ☐ ☐

	3章 酸・アルカリと塩 力だめし、学んだ後にリトライ！ 化学電池と未来	2 化学変化についての観察、実験を通して、水溶液の電気伝導性や酸性やアルカリ性の特徴、中和反応、化学電池のしくみなどについて理解し、これらの事象・現象をイオンのモデルと関連付けて考え、説明できる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	【単元2】 宇宙の中の地球 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 力だめし、学んだ後にリトライ！ 大きさをこえてさぐる太陽系の歴史 学習のまとめ	1 身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察し、太陽や惑星の特徴及び月の運動と見え方を理解するとともに、太陽系や恒星など宇宙についての認識を深める。 2 天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて説明できる。 3 星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けてとらえ、天体の位置関係や運動について相対的に理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【単元5】 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして 力だめし、学んだ後にリトライ！ かけがえのない地球とともに	1 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解し、自然環境を保全することの重要性を認識する。 2 自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考えることができる。 3 エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識する。 4 科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしてきたことを認識する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業は観察や実験を中心に授業を進めていきます。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。授業終了後、副教材の問題集を使ってしっかり復習しておきましょう。
------	---

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度...学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。提出物を忘れずに提出することができている。 ②思考・判断・表現...教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③知識・技能...教科書に書かれた実験手順を基に実験を行うことができている。正しく実験器具を使用することができている。学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。
------	--

	以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
--	---

教 科	音楽	科 目	音楽	学 年	3	類 型	
単位数	1 単位	教科書	中学生の音楽 2・3 下 中学生の器楽（教育芸術社）				
副教材	県版 音楽ノート						

学習目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
------	---

○歌唱 ◇器楽 ◎鑑賞 ●創作

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達目標評価 A B C
1 学期	詞の内容を理解して、強弱を生かした表現を工夫しよう ○「花」 ヴァイオリンを弾いてみよう ◇◎「きらきら星」 ギターを弾いてみよう ◇◎「カントリーロード」他	・歌詞の情景を思い浮かべながら歌詞を朗読する。 ・曲想を感じ取り、どのように歌うか表現意図を持つ。 ・楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につける ・楽器の響きを味わって、音色を生かした表現方法の工夫 ・楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につける ・楽器の響きを味わって、音色を生かした表現方法の工夫 ・派生音の音名（英・日・伊語）とコードネーム	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう ○「校歌」 ○「合唱コンクール自由曲」 曲のよさをプレゼンテーションしよう ◎バレエ音楽「ボレロ」 ◎交響曲 ルールを守って音楽を楽しもう	・八中生としての自覚と誇りを持ち、歴史と伝統に触れながら、校歌「道」の合唱仲間と作り上げる ・パートの役割と全体の響きとのかかわりを理解し、曲にふさわしい表現を仲間と工夫して表情豊かに合唱する ・音楽の特徴を、文化・歴史や他の芸術とのかかわりや曲想などから理解する ・楽曲のよさや美しさを味わいながら聴き、根拠をもって批評する ・音楽を楽しむためのルール（著作権）の理解	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	Let's Create! ●リズムアンサンブル 卒業式に向けて ○卒業式の歌	・構成を生かしたリズムアンサンブルの創作 ・曲想や魅力を生かして、卒業式に向け表現を工夫しながら合唱する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	表現領域（「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野）、鑑賞領域で学習を進めていきます。実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というもので学習していきます。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間にしてください。
------	---

評価方法	【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】【鑑賞の能力】の4つの観点について評価します。日頃の授業や実技テスト、ノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価します。
------	--

教 科	美術	科 目	美術	学 年	3	類 型	
単位数	1 単位	教科書	美術 2 ・ 3 下（日本文教出版）				
副教材	美術資料						

学習目標	○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	達成評価 A B C
1 学 期	日本の世界文化遺産 形と色の構成	・世界遺産について関心を持つ。 ・モチーフをスケッチして美しい形を見つける。 ・単純化と平面化を工夫して色面構成する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	ゲルニカは語る	・ゲルニカを鑑賞し、作品が作られた背景をもとに、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。	☐ ☐ ☐
2 学 期	イメージを形で表現しよう	・塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを考え、表現の構想を練る。 ・文字の形を工夫して表す。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	刻まれた祈り	・仏像にも様々な種類があり、時代や作者によって特徴が異なることに関心をもつ。	☐ ☐ ☐
3 学 期	私との対話	・自分の姿を見つめて考えたことをもとに、今の自分の気持ちや将来の夢を表すなど、表現の構想を練る。 ・表現方法を工夫して、今の自分を表す。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	文化 受けつぎ、作る	・美術や美術作品と時代や社会との関わりに着目しながら鑑賞する。	☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	---

評価方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点 より評価を行います。題材によっては、1つの観点や、2つの観点からのみ評価を行う場合もあります。
------	---

教 科	保健体育	科 目	保健体育	学 年	3	類 型	
単位数	3	教科書	大修館書店				
副教材	ステップアップ中学体育 中学校保健体育ノート						

学習目標	健康や運動に関心を持ち、主体的に運動に親しむことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、基礎体力の向上及びたくましい精神を培う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達目標 A B C
1 学 期	体づくり運動	・自己の体に関心を持ち自己の体力に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ゴール型)	・選択した種目において、基本的なボール操作やボールを持たない時の動き・技術を習得し、集団的技能や戦術を活かしたゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ネット型)	・選択した種目において、各種ストロークやサービスなどのボール操作を身につけ、ラリーやゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	保健	・健康を保持増進し、疾病を予防するための適切な対処について理解することができる。	☐ ☐ ☐
	水泳(クロール・平泳ぎ)	・足のけりを中心として進み、十分な伸びをとりながら長い距離を泳ぐことができる。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。 ・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	選択球技(ネット型)	・選択した種目において、各種ストロークやサービスなどのボール操作を身につけ、ラリーやゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ゴール型)	・選択した種目において、基本的なボール操作やボールを持たない時の動き・技術を習得し、集団的技能や戦術を活かしたゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	器械運動と陸上競技の選択	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかにできるようになり、仲間と一緒に技を組み合わせて集団演技を発表する。 ・記録の向上や競争の楽しさを味わいながら競技会を楽しむ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	保健	・テーマから表したいイメージをとらえ、適した動きで踊る。 ・感染症の原因や感染経路、感染予防の3つの対策について理解することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	長距離走	・自己の能力に応じて、長い距離をより速くはしることができる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	球技(ベースボール型)もしくはダンス	・基本的なボール操作を身につけ、ゲームを楽しむ。 ・テーマに応じた動きやBGMを編集し、発表会を楽しむ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	保健	・健康になる方法と病気の防ぎ方や行動を学ぶ。	☐ ☐ ☐
	体育理論	・スポーツが文化として世界中に広まり、生活の中で重要な役	☐ ☐ ☐

		割を果たしていることを理解する。	
--	--	------------------	--

※A:十分に満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

学習方法	★実技の時間は、チャイムですぐに始めることができるように集合場所で整列して待ちましょう。 ★挨拶や返事は大きな声で行い、きびきびとした集団行動を心がけましょう。 ★学習シートはその日のうちに書いて提出し、各自めあてをもって授業に参加しましょう。 ★自分の体力に応じた課題を持ち、日頃から生活の中に運動を取り入れましょう。また、運動・スポーツに関する情報を収集し、興味・関心を高めましょう。 ★各種目の特性や技術、ルール等はステップアップ中学体育で調べ、予習して授業に臨みましょう。
------	---

評価方法	【知識・技能】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③学年末テスト 【思考力・判断力・表現力等】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③期末テスト 【主体的に学習に取り組む態度】①活動状況観察 ②学習シート
------	--

学習目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
------	--

15

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	副教材の技術ノートで要点をおさえながら授業を行っていきます。はんだごてを使って作品に取り組み、提出してもらうので、忘れないようにしてください。
評価方法	①主体的に学習に取り組む態度…よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 ②思考・判断・表現…よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用している。 ③知識・技能…エネルギー変換方法や力の伝達の仕組みについての知識を身に付け、エネルギー変換に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。機器の保守点検と事故防止ができる。 以上3つの観点について、日頃の授業や技術ノート、課題などの学習状況及び定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。

教 科	技術・家庭	科 目	家庭	学 年	3	類 型	
単位数	1	教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）技術・				
副教材	技術・家庭 家庭分野 準拠ノート（教育図書）						

学習目標	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	達成度評価 A B C
1 学 期	3編 私たちの成長と 家族・地域 1章 家族・家庭と地域 2章 幼児の生活と家族 3章 これからの私と家 族 ○幼児のおもちゃを手作りし てみよう	・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理 解する。 ・これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族 関係をより良くする方法を考える。 ・幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境とし ての家族の役割について理解する。 ・幼児の遊び道具の製作活動を通して、幼児の遊びの意義 について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	4編 私たちの消費生活 1章 私たちの消費生活 2章 環境に配慮した消費生 活 ○幼稚園訪問	・自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な 権利と責任について理解すること。 ・販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サー ビスの適切な選択、購入及び活用ができる。 ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考 え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践でき る。 ・幼児と触れ合う活動を通して、幼児への関心を高め、関 わり方を工夫できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	10月から 技術分野を学習します。		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるよう にしましょう。 各課題は基本的には学校内で行う。課題の提出については期限を守りましょう。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ協力して進めましょう。
------	---

評価方法	評価は次のような観点で、様々な角度から総合的に判断します。 ○知識・技能 ・作品（製作に着実に取り組み、最後まで丁寧に仕上げたか） ・実技テスト（課題を確実に達成できたか、上手に正しく道具が扱えるか） ・発表（聞いている人にわかりやすい発表ができたか） ・ペーパーテスト（身につけておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○思考・判断・表現 ・レポート・計画（課題に着実に取り組み、工夫したレポート・計画になっているか）
------	---

	・発表（自分で考え、自分なりに考えた発表をしているか） ・作品（自分なりに工夫した、生活に役立つ作品を制作することができたか） ・ペーパーテスト（身につけておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○主体的に学習に取り組む態度 ・授業態度（落ち着いた態度で参加し、よく聞き、よく発表しているか） ・宿題、提出物（期限までに提出できたか）、ノート・プリント（確実に記入されているか） ・自己評価、総合評価（正しく評価できたか）
--	--

教 科	外国語	科 目	英語	学 年	3	類 型	
単位数	4	教科書	NEW HORIZON English Course3				
副教材	中学必修テキスト中学 3 年英語， 中学実力練成 α スタンダード英語 3 年， トーク・アンド・トーク・ライト Book3， 速読英単語入門編						

学習目標	・はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。 ・社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。 ・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合ったり、話したり、書いたりすることができる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	・ Unit 0 Three Interesting Facts about Languages ・ Unit 1 Sports for Everyone ・ Unit 2 Haiku in English ・ Unit 3 Animals on the Red List ・ Stage Activity1 My Activity Report ・ Let's Read1 A Mother's Lullaby	・ 受動態の復習 ・ 現在完了形の経験用法（肯定文, 疑問文, 否定文）の習得 ・ 現在完了形の完了用法と継続用法（肯定文, 疑問文, 否定文）の習得。 ・ <It is …(for 人)to … >, <want 人 to>, <let(help) 人 動詞の原形>の習得 ・ 活動報告の構成を理解し、自分の経験やほかの人へのメッセージを即興で話したり、まとまりのある文章を書いて発表できるようになる。 ・ 場面や人物の心情を表す表現の理解をもとに、物語の流れに沿って場面の変化や登場人物の心情を読み取ることができるようになる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	・ Unit 4 Be Prepared and Work Together ・ Unit 5 A Legacy for Peace ・ Stage Activity2 Discover Japan ・ Unit 6 Beyond Borders ・ Stage Activity3 Let's Have a Mini Debate	・ 間接疑問文と SV00(what 節)の文の習得。 ・ 名詞を修飾する文と関係代名詞 who, that, which(主格・目的格)の習得。 ・ 日本や郷土の文化について書かれた文章を参考にしたりやり取りをしたりをして紹介文を書くことができるようになる。 ・ 仮定法と主語を説明する関係代名詞の習得。 ・ ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしながら、意見を伝え合うことができるようになる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学 期	・ Let's Read 2 Power Your Future ・ Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs	・ 長所と短所を比較して述べる文章の構成の理解をもとに、エネルギー問題について書かれた文章の内容を読み取ることができるようになる。 ・ メッセージを伝える文章の構成の理解をもとに、生き方について書かれたスピーチの原稿を読み取ることができる。	□ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業では、言語の理解・習熟・応用のバランスを考えて単元ごとに技能を高めます。復習として中学必修テキスト、中学実力練成αスタンダード等を用いて既習事項の徹底を図ります。また、小テストや単元テストを実施してスモールステップを実践します。
評価方法	①「知識・技能」外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 ②「思考力・判断力・表現力」コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ③「主体的に学習に取り組む態度」外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及びレッスンごと的小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。パフォーマンステストでは、英語での表現能力を評価する。